

うつくしま ふくしま 土地改良だより

No.527

平成29年 1月



初春

西（郷土民芸）

目 次	
●新年のごあいさつ（車田水土里ネット福島会長）……………	2
●新年に当たって（二階全国水土里ネット会長）……………	3
●新年挨拶（進藤参議院議員）……………	4
●平成28年度 第1回理事会開催……………	5
●平成28年度 第2回理事会開催……………	5
●第39回全国土地改良大会（石川大会）……………	6
●土地改良事業功労者表彰式……………	7
●平成29年度 農林水産予算の骨子（H29.1現在）……………	8
●平成29年度 予算概算決定の概要（H29.1現在）……………	9
●要請活動……………	15
●福島県土地改良団体職員連絡協議会第40回総会 及び業務研修会を開催……………	19
●ISO9001の定期審査（JQA）……………	20
●水土里ネット福島主催・参加による研修会……………	21
●第14回 治右衛門の堰「あじさい祭り」……………	24
●西根堰の隧道探検……………	24
●栗本堰を訪ねる小学生勉強会……………	25
●白河市イベント「Decoraしらかわ2016」……………	25
●第13回 水土里ネット・施設めぐり健康ウォーク……………	26
●第2回ぼんだい紅葉ウォーキング……………	26
●水土里ネット井上用水堰「田んぼアート」実施……………	27
●「ふくしま むらの輝き2016」写真コンテスト……………	28
●水土里ネット福島に対するアンケート調査結果……………	30

皆様と共に農村の復興のため、
歩んでいきます。

 水土里ネット福島



新年のごあいさつ

みどり
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

会長 **車田次夫**

平成29年の新春を迎えられましたこと、謹んでご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、ご壮健で良き新年を迎えられたことと、心からお慶びを申し上げます。

また、日頃より本会の業務推進に格別のご理解とご協力を頂いておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて、政府は昨年8月に新たな「土地改良長期計画」を閣議決定し、産業政策としての「豊かで競争力ある農業」、地域政策としての「美しく活力ある農村」、この土台としての「強くてしなやかな農業・農村」を掲げ、各種施策を計画的に推進することとしております。

この長期計画を着実に実現していくには、担い手への農地集積の加速化を図るための農地の大区画化や高収益作物への転換による農業所得増加のための暗渠排水による汎用化、農業水利施設等の長寿命化や防災・減災対策など、農業生産基盤を整備するために必要な土地改良事業を重点的に実施していかなければならないと考えております。

また、その土地改良事業を推進し、基幹的水利施設等を維持管理している土地改良区は、地域の農業を守る要の組織として、その役割がますます重要になっていきます。

本会といたしましても、土地改良事業関係の皆様とともに連携しながら、本県農業の振興・発展と土地改良区の運営基盤の強化に努めて参りますので、今後とも、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様にとって新しい年が幸多い年となりますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



新年に当たって

全国水土里ネット

(全国土地改良事業団体連合会)

会長 二階 俊博

平成29年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

昨年は、多くの災害に見舞われました。4月には熊本県と大分県で、また、10月には鳥取県で大規模な地震が複数回発生しました。現地では復旧作業が急ピッチで行われておりますが、今なお避難生活を余儀無くされている方々が多数おられます。また、8月末から9月には東北・北海道に、10月には南九州にそれぞれ台風が襲来し、洪水による被害が発生しました。これらの自然災害は、予期せぬ形で発生し、いずれも多大な被害をもたらしております。被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧が出来ますよう、私どもとしても一体となって全力を尽くしたいと思います。

さて、私は会長に就任以来、民主党政権時代に7割近く削減された状況であった予算をまずは復活させようと、「闘う土地改良」の重要性を訴え、予算獲得に向け本気になって取り組んで参りました。これまで各都道府県連合会からは、財源不足による事業の停滞に対し悲鳴が上がって参りましたが、1日も早く予算確保を訴える声が届いて参りましたが、この度、全国の皆様の熱心な要請活動によって、平成28年度補正予算で1752億円を確保するなど、平成29年度当初予算も含め、ようやく以前の水準に近いところでまで漕ぎ着けることが出来ました。

また、土地改良の代表を再び国会へ送り込むとの強い決意のもと、昨年の参議院選挙では、見事進藤さんが当選を果たされました。この選挙活動を通じて、地方のすみずみまで「闘う土地改良」の精神が浸透したと実感いたしております。今後は、進藤さんの活動と連携して、更に一層の浸透が図られるよう念じております。

今、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

このような状況の中、農林水産省では、昨年8月に新たな土地改良長期計画を策定されました。その中で、産業政策として「豊かで競争力ある農業」、地域政策として「美しく活力ある農村」、さらに産業政策と地域政策を支える土台として「強くてしなやかな農業農村」の3つの政策課題を掲げられております。また、昨年11月には、政府の「農林水産業・地域の活力創造本部」において、「農業競争力強化プログラム」が決定され、「農林水産業・地域の活力創造プラン」の中に位置づけられました。このプログラムには、農業生産・流通の構造改革とともに、真に必要な基盤整備を円滑に行うための土地改良制度の見直しも謳われております。農地の集積・集約化を進めるため、農地中間管理機構が借りている農地のほ場整備事業について、農地所有者等の費用負担を無くし、事業実施への同意を不要とすること、また、土地改良区の体制強化等についても検討を進めることとされています。

私たち土地改良担当者として、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げます。私の新年のご挨拶といたします。



新年挨拶 本年も「闘う土地改良」で全力

参議院議員 しん進 どう藤 かね ひ こ金子

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、良き年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

土地改良に関係する方々が心を一つにさせていただいた昨夏の結果を胸に刻み、今年も皆様のご期待に着実に応えることができるよう努力してまいります。

また、昨年は、4月の熊本地震被害、8月の北海道・東北を中心とした台風被害などがありました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

このような地殻や気候変動等に起因すると思われる地震・豪雨災害等が頻発していることから、防災減災対策の早期かつ着実な実施が喫緊の課題であり、各地域の実情や特性を踏まえて機動的に対応していかなければなりません。そのような意味も含めて、土地改良にとって本年は、制度的にも予算的にも極めて重要な年となります。

まず制度です。第一に昨年8月に閣議決定された土地改良長期計画実動の初年であり、目標達成に向けて確実に所要の成果を確保していく必要があります。第二に昨年11月に改訂された「農林水産業・地域の活力創造プラン」と新たに策定された「農業競争力強化プログラム」に基づき、着実に施策を実施していく必要があります。その中で土地改良制度の見直しとして、農地中間管理機構が借り入れしている農地について農業者の費用負担や同意を求めない基盤整備事業制度創設、国・都道府県営土地改良事業に係る申請人数要件（15人以上）の廃止、水利施設の突発事故に係る事業やため池等の耐震化事業について原則農業者の費用負担や同意なしに事業実施が可能となる仕組みの創設、一定の機能向上を伴う更新事業について同意徴集手続を簡素化する見直しなどが盛り込まれています。これらは今後、土地改良法を改正した上で順次実行されていくこととなります。

次に予算です。農業農村整備事業費は、今年度補正予算で大幅な追加がなされ、更に平成29年度当初予算の概算決定で前年比200億円の増額が確保され、補正と当初を合わせて民主党政権前の予算規模となりました。基本的に、補正予算は予算不足による継続地区の工期遅延を正常化する予算であり、当初予算は順番待ちをしている新規地区の早期の着工と完了に必要な安定的な予算です。福島県においては、東日本大震災関連の事業費は十分確保されているものの、通常の農業農村整備事業費は、継続地区の進捗及び新規地区の着工について皆様の要望を満たすことができない状況にあります。これらを解消するべく、引き続き、補正予算確保と当初予算のさらなる増額に向けて闘ってまいります。

往々にして課題の大きさと重さに伏し目がちになりますが、是非とも頭を上げ、目を見開き、微笑みをもって前に進みましょう。どんな困難も一人でなく皆で立ち向かいましょう。私も、引き続き「闘う土地改良」の先頭に立って全力を尽くし、皆様と一緒に諸課題の解決に向けて専心努力してまいります。今年が皆様にとってご家族共々素晴らしい一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年の挨拶といたします。

平成28年度 第1回理事会開催

平成28年度第1回理事会が、6月15日(水)、県土地改良会館役員会議室において開催された。車田会長より挨拶の後、会長を議長として議事に入り各議案が審議され、慎重審議の結果、原案どおり可決承認された。

提出議案

- 議案第1号 平成27年度事業報告・財産目録及び収支決算の承認について
- 議案第2号 平成28年度一般賦課金の免除措置について
- 議案第3号 平成28年度事業変更計画及び収支補正予算について
- 議案第4号 福島県水土総合推進室設置運営規程の廃止について
- 議案第5号 諸規程の制定について
- 議案第6号 諸規程の一部改正について



平成28年度 第2回理事会開催

平成28年度第2回理事会が、10月20日(水)、県土地改良会館役員会議室において開催された。理事会は、会長を議長として議事に入り提案された各議案が慎重審議の結果、原案どおり可決承認された。

提出議案

- 議案第1号 132条検査指摘事項に関して講じる改善措置について



第39回全国土地改良大会（石川大会）

平成28年10月25日(木)午後1時00分より、石川県金沢市の「いしかわ総合スポーツセンター」において、第39回全国土地改良大会が全国水土里ネット・水土里ネット石川の主催で開催され、全国から約4,300名の土地改良関係者が集い農業農村の重要性・必要性和それを支える農業農村整備事業の役割を広く国民にアピールするとともに、新たな視点に立った農業農村整備事業に展開を図ることを確認しあった。

式典では、水土里ネット石川の西村会長が開催地を代表し、「被災地へのお見舞いを述べ、大切な農地農業用施設を次世代に引き継ぐため、一丸となって土地改良に取り組みたい。」と挨拶した。

続いて、全国水土里ネットの二階会長（自民党幹事長）が主催者を代表し、「26日の現地視察を通じて「土地改良が石川県の農業農村に果たしてきた役割を肌で感じ、あらためて我々に課せられた使命の重要性を認識していただきたい」などと呼びかけた。政府が目指す「攻めの農業」の実現に向け、昨年度に引き続き、農業農村整備関係予算の満額確保を求めた。

次に、来賓祝辞（谷本石川県知事、山野金沢市長、磯崎農林水産副大臣、進藤都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問の4名）、土地改良事業功労者表彰式が行われ、本県からは、堀内治氏（前会津若松市湊土地改良区理事長）が「農村振興局長賞」、また、松本允秀氏（前葛尾村長）が「全土連会長賞」を受賞した。

その後、農林水産省農村振興局次長室本隆司氏と石川県立大学参与丸山利輔氏より基調講演を行った後、北陸の優良事例が3地区紹介された。

大会宣言では石川県立大学で環境科学を学ぶ学生金平健世さん、川向七海さん2人によって「先人達から受け継がれてきた、かけがえのない農業・農村を次世代へ引き継いでいくことを「水土里育む土地改良」を合い言葉にここ富士の国やまなしから宣言する。」と力強く大会宣言が読み上げられた。

引き続き、水土里ネット石川より次期開催県である水土里ネット静岡に、全土連を仲介し、大会旗が引き継がれ、水土里ネット静岡の会長より挨拶があった。（第40回の静岡大会は平成29年10月25日開催）

最後に水土里ネット石川の酒井副会長より閉会宣言があり、式典のすべてを終了した。



開会挨拶 西村石川県土地連会長



主催者挨拶 二階全土連会長



来賓祝辞 進藤金日子議員

土地改良事業功労者表彰式

農村振興局長表彰

ほり うち おさむ
堀内 治 様

前 会津若松市湊土地改良区理事長

経歴 平成12年に土地改良区理事に就任
平成22年に土地改良区理事長に就任

農業経営の安定化を図るためには、農業基盤の整備が最重要であるとの理念から農業農村整備事業を積極的に推進し、大区画ほ場の整備に取り組み、また、農地の集団化、農作業の効率化、更には農地の汎用化を図り、農業経営の向上に寄与した。

県営ほ場整備事業湊地区、双潟地区、赤井地区等を完了に導いた。

管内には基盤整備事業を契機に農業生産法人が7法人設立されており、健全な集落営農を展開している。これも、堀内氏の積極的なリーダーシップによるものであり、組合員からの厚い信頼を得るとともに、集落営農の振興に寄与した功績は誠に顕著である。

全土連会長表彰

まつ もと まさ ひで
松本 允 秀 様

前 葛尾村長

経歴 昭和63年に葛尾村長に就任、以来7期28年に渡り、葛尾村政に携わる。(福島県町村会長、全国治水砂防協会東北地区協議会長等を歴任。)

中山間総合整備事業かつらお地区、担い手育成型ほ場整備事業のかつらお地区等の事業推進に尽力された。

また、農業の持続的発展に向け、生活基盤と生産基盤の一体的な整備を精力的に推進してきた。

震災により全村避難を余儀なくされた中でも、農地の荒廃を防ぐための施策を細やかに実施し、昨年6月に避難指示が解除された後は、速やかに農業再生事業化計画を策定し、基盤整備を含めた農業の再生策を打ち出し、精力的に推進している功績は極めて大きく他の模範である。



左：堀内氏、右：松本氏

平成29年度 農林水産予算の骨子 (H29.1現在)

1. 総括表

(単位：億円)

区 分	28年度 予 算 額	29年度 概算決定額 A	(28年度2次補正追加額)	
			補 正 額 B	A + B
農林水産予算総額 (対前年度比)	23,091 —	23,071 99.9%	5,739 —	28,810 124.8%
1. 公共事業費 (対前年度比)	6,761 —	6,833 101.1%	2,863 —	9,697 143.4%
一般公共事業費 (対前年度比)	6,569 —	6,641 101.1%	2,150 —	8,791 133.8%
災害復旧等事業費 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	713 —	906 470.4%
2. 非公共事業費 (対前年度比)	16,330 —	16,238 99.4%	2,876 —	19,114 117.0%

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業等に306億円を措置している。

2. 公共事業費一覧

(単位：億円)

区 分	28年度 予 算 額	29年度 概算決定額 A	(28年度2次補正追加額)	
			補 正 額 B	A + B
農業農村整備 (対前年度比)	2,962 —	3,084 104.1%	1,580 —	4,664 157.4%
林 野 公 共 (対前年度比)	1,800 —	1,800 100.0%	410 —	2,210 122.8%
治 山 (対前年度比)	597 —	597 100.0%	100 —	697 116.8%
森 林 整 備 (対前年度比)	1,203 —	1,203 100.0%	310 —	1,513 125.8%
水産基盤整備 (対前年度比)	700 —	700 100.0%	160 —	860 122.8%
海 岸 (対前年度比)	40 —	40 100.0%	1 —	40 101.3%
農山漁村地域整備交付金 (対前年度比)	1,067 —	1,017 95.3%	— —	1,017 95.3%
一般公共事業費計 (対前年度比)	6,569 —	6,641 101.1%	2,150 —	8,791 133.8%
災 害 復 旧 等 (対前年度比)	193 —	193 100.0%	713 —	906 470.4%
公共事業費計 (対前年度比)	6,761 —	6,833 101.1%	2,863 —	9,697 143.4%

- (注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
4. 農業農村整備事業関係予算については、
・29年度概算決定額として4,020億円（農業農村整備事業3,084億円、農山漁村地域整備交付金のうち農業農村整備分701億円及び農地耕作条件改善事業（非公共）236億円の合計）
・28年度2次補正額として1,752億円（農業農村整備事業1,580億円及び農地耕作条件改善事業等（非公共）172億円の合計）を措置している。
5. このほか、28年度3次補正予算において、災害復旧等事業に123億円を措置している。

平成29年度 予算概算決定の概要 (H29.1現在)

【農村振興局】

1. 主要予算総括表

(単位：億円)

事 項	28年度 当初予算額	28年度 第2次補正額	29年度 概算決定額	対前年度比 (%)
一般会計				
非公共事業	1,215	215	1,340	110.4%
公共事業	4,143	1,996	4,215	101.7%
農業農村整備事業	2,962	1,580	3,084	104.1%
農山漁村地域整備交付金	1,067	—	1,017	95.3%
海岸事業	33	—	33	100.0%
災害復旧事業等	82	416	82	100.0%
農村振興局予算総額	5,358	2,211	5,555	103.7%

- (注) 1. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
2. 農山漁村地域整備交付金は、林野庁及び水産庁分を含む農林水産省の全体の額である。
3. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

2. 非公共予算の概要

(単位：百万円)

事 項	28年度 当初予算額	28年度 第2次補正額	29年度 概算決定額	対前年度比 (%)
主な事項				
農地耕作条件改善事業	12,274	10,200	23,562	192.0%
荒廃農地等活用促進交付金	231	—	231	100.0%
多面的機能支払交付金	48,251	—	48,251	100.0%
中山間地域等直接支払交付金	26,300	—	26,300	100.0%
農山漁村振興交付金 ※うち山村活性化支援交付金を含む	8,000	—	10,060	125.8%
鳥獣被害防止総合対策交付金	9,500	900	9,500	100.0%
都市農業機能発揮対策事業	191	—	160	83.8%
再生可能エネルギー導入等の推進のうち 小水力等再生可能エネルギー導入支援事業	—	—	262	皆増
美しい農村再生支援事業	96	—	44	45.9%
特殊自然災害対策施設緊急整備事業	150	150	150	100.0%
農家負担金軽減支援対策事業	4,660	—	3,740	80.3%
農村振興局 非公共予算総額	121,463	21,500	134,035	110.4%

- (注) 1. 計数整理の結果、異動を生じることがある。
2. 農村振興局 非公共予算総額については、主な事項以外の事業等も含めた総額である。

平成29年度 農業農村整備事業関係予算概算決定の概要

(単位：億円)

	28年度 予 算 額	29年度 概算決定額 A	(28年度第2次補正追加額)	
			補 正 額 B	A + B
農業農村整備事業	2,962 —	3,084 (104.1%)	1,580 —	4,664 (157.4%)
農山漁村地域整備交付金 (農業農村整備分)	735 —	701 (95.3%)	— —	701 (95.3%)
農地耕作条件改善事業 (非公共)	123 —	236 (192.0%)	172 —	408 (332.1%)
計	3,820 —	4,020 (105.2%)	1,752 —	5,772 (151.1%)

- ※ 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
 2. 下段 () 書きは28年度予算額との比率である。
 3. 28年度第2次補正額はT P P関連対策を含む。

農業農村整備事業の概要

(単位：億円)

事 項	28年度 当初予算額	28年度 第2次補正額	29年度 概算決定額	対前年度比 (%) ③/①	28年度第2次補正額 + 29年度概算決定額	対前年度比 (%) ④/①
	①	②	③		②+③=④	
農業農村整備事業						
国営かんがい排水	1,179	279	1,186	100.6%	1,465	124.2%
国営農地再編整備	176	170	197	111.5%	367	207.8%
国営総合農地防災	262	43	262	99.8%	305	116.2%
直轄地すべり	15	—	12	78.1%	12	78.1%
水資源開発	70	1	73	103.5%	74	105.2%
農業競争力強化基盤整備	500	850	580	116.0%	1,430	285.8%
農村地域防災減災	508	237	508	100.1%	746	146.9%
土地改良施設管理	156	—	156	100.3%	156	100.3%
その他	96	—	111	115.8%	111	115.8%
計	2,962	1,580	3,084	104.1%	4,664	157.4%

- (注) 1. 計数は四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
 2. 28年度第2次補正額はT P P関連対策を含む。
 3. その他には後進地域開発特別法適用団体土地改良等関係開発指定事業補助率差額金を含む。

平成29年度 農林水産関係予算の重点事項 (農村振興局関係)

農村振興局予算総額 5,555億円
(5,358億円)

(※) 各事項の下段 () 内は、平成28年度当初予算額、【補正予算】は、平成28年度第2次補正予算

1 担い手への農地集積・集約化による構造改革の推進

(1) 農地中間管理機構による農地集積・集約化

- | | | |
|--|---|-----------------|
| ① 農地の大区画化等の推進〈公共〉 | (農業農村整備事業で実施)
1,034億円の内数
(913億円の内数) | 【補正予算】
370億円 |
| ・農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化が行われる地域等において、地域の特性に応じた農地の大区画化・汎用化等を促進 | | |
| ② 農地耕作条件改善事業 | 236億円
(123億円) | 【補正予算】
102億円 |
| ・農地中間管理機構による担い手への農地の集積・集約化を促進するため、担い手への農地の集積・集約化が行われ、又は基盤整備の実施により今後行われると見込まれる地域において、区画拡大、暗渠排水等に加え、土壌改良をはじめとする借り手のニーズに対応した基盤整備を支援 | | |

2 水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施

- | | | |
|---|------------------------------------|-----------------|
| ○ 水田の畑地化・汎用化の推進〈公共〉 | (農業農村整備事業で実施)
1,034億円の内数
(一) | 【補正予算】
496億円 |
| ・平場・中山間地域などにおいて、水田の畑地化や畑作物に軸足を置いた汎用化のための基盤整備を推進するとともに、転換に必要な水利用調整等を円滑に進めるため、地区の負担軽減等を図ることにより、高収益作物への転換を促進 | | |

3 強い農林水産業のための基盤づくり

(1) 農林水産基盤整備(競争力強化・国土強靱化)

- | | | |
|--|----------------------|-------------------|
| ① 農業農村整備事業〈公共〉 | 3,084億円
(2,962億円) | 【補正予算】
1,580億円 |
| ・農地の大区画化、老朽化した施設の改修等の遅れがみられる中、農業の競争力強化や農村地域の国土強靱化を図るため、農地集積の加速化、農業の高付加価値化のための農地の大区画化・汎用化や水路のパイプライン化、老朽化した農業水利施設の長寿命化・耐震化対策等を推進 | | |
| ② 農地耕作条件改善事業〈再掲〉 | 236億円
(123億円) | 【補正予算】
102億円 |
| ③ 農山漁村地域整備交付金〈公共〉 | 1,017億円
(1,067億円) | |
| ・地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援 | | |

(2) 農林水産関係施設整備

- | | | |
|---|--------------|---------------|
| ○ 特殊自然災害対策施設緊急整備事業 | 2億円
(2億円) | 【補正予算】
2億円 |
| ・火山の降灰被害に対応するための洗浄用機械施設等の整備やこれと一体的に行う用水確保対策等を支援 | | |

(3) 畜産・酪農の競争力の強化

- | | | |
|---|---------------------------------|----------------|
| ① 草地関連基盤整備〈公共〉 | (農業農村整備事業で実施)
62億円
(48億円) | |
| ・畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する飼料生産の基盤整備等を推進 | | |
| ② 畜産クラスターを後押しする草地整備の推進〈公共〉 | | 【補正予算】
94億円 |
| ・畜産クラスター計画を策定した地域において、地域ぐるみの効率的な飼料生産を一層推進するため、草地・畑地の一体的整備、草地の大区画化等を支援 | | |

4 人口減少社会における農山漁村の活性化

(1) 中山間地域農業の活性化支援

- | | | |
|---|---|--|
| <p>① 中山間地域農業ルネッサンス事業〈一部公共〉
(中山間地農業特別支援対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地の特色を活かした多様な取組を後押しするため、地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承や、多様で豊かな農業と美しく活力ある農山村の実現に向けた取組を総合的に支援 | <p>400億円
(優先枠等を
設けて実施)</p> | |
| <p>② 中山間地域所得向上支援対策〈一部公共〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等において、収益性の高い農産物の生産・販売等に本格的に取り組む場合に、実践的な計画策定、水田の畑地化等の基盤整備、生産・販売等の施設整備等を総合的に支援 | | <p>【補正予算】
300億円
(優先枠等を
設けて実施)</p> |

(2) 日本型直接支払の実施

- | | |
|--|---------------------------------|
| <p>① 多面的機能支払交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る活動に交付金を交付 | <p>483億円
(483億円)</p> |
| <p>② 中山間地域等直接支払交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域等における農業生産条件の不利を補正するため、条件不利地域での農業生産活動を継続して行う農業者等に交付金を交付 | <p>263億円
(263億円)</p> |

(3) インバウンドの推進と農山漁村の振興

- | | |
|--|--|
| <p>① 「農泊」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増大するインバウンド需要を呼び込み、農山漁村の所得向上を図るため、「農泊」をビジネスとして実施できる体制の構築、地域に眠っている資源の魅力ある観光コンテンツとしての磨き上げ等の取組や古民家等を活用した滞在施設、農林漁業体験施設等の整備を一体的に支援(このほか、国有林において、修景伐採、木道整備等を実施) | <p>(農業農村整備事業で実施)
101億円の内数
(80億円の内数)</p> |
| <p>② 農山漁村振興交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市と農山漁村の共生・対流の促進や地域の活性化、薪炭・山菜など地域資源の活用等による山村の活性化、福祉農園の開設等による農福連携の推進、定住・地域間交流、雇用の増大を促進するための施設等の整備を支援 | <p>101億円
(80億円)
うち山村活性化支援交付金
8億円
(8億円)</p> |
| <p>③ 荒廃農地等の利用促進交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒廃農地等を再生利用するための雑草・雑木除去や土作り等の取組を支援 | <p>2億円
(2億円)</p> |

(4) 都市農業の機能発揮

- | | |
|---|-----------------------------|
| <p>○ 都市農業機能発揮対策事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市農業の多様な機能の発揮を促進するため、国土交通省と連携し、都市農業に関する課題の調査を実施するほか、都市農地の周辺環境対策、都市農業の意義の周知、災害時の避難地としての農地の活用を支援 | <p>2億円
(2億円)</p> |
|---|-----------------------------|

(5) 再生可能エネルギーの導入促進

- | | |
|---|---|
| <p>○ 再生可能エネルギー導入等の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー事業によるメリットを地域の農林漁業の発展に活用する取組、農業水利施設を活用した小水力発電等に係る調査設計、地域のバイオマスを活用した産業化等に必要な施設整備等を支援 | <p>9億円
(2億円)
うち農村振興局分
3億円
(-)</p> |
|---|---|

(6) 鳥獣被害防止対策の推進

- | | | |
|--|-------------------------------|------------------------------|
| <p>○ 鳥獣被害防止総合対策交付金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害対策実施隊の増設・捕獲活動の実施、侵入防止柵の設置、捕獲技術高度化施設や処理加工施設の整備、ジビエ活用の推進等を支援 | <p>95億円
(95億円)</p> | <p>【補正予算】
9億円</p> |
|--|-------------------------------|------------------------------|

担い手への農地集積・集約化による構造改革の推進【非公共】

農地耕作条件改善事業

- 我が国農業の競争力を強化するためには、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備を行い、**農地中間管理機構による担い手への農地集積を推進するとともに、高収益作物への転換を推進することが重要。**
- このため、**多様なニーズに沿ったきめ細かな耕作条件の改善を機動的に進めるとともに、農地集積を図りつつ高収益作物への転換を図る場合には、計画策定から営農定着に必要な取組をハードとソフトを組み合わせ一括支援。**

1. 事業内容

《地域内農地集積型》最大5年(ハードは最大3年)

○ 定額助成

- ・ 区画拡大、暗渠排水、用水路の更新整備 等^(※1)
- ・ 1地区あたり上限300万円(年基準額)の条件改善促進支援(調査・調整、先進的省力化技術導入支援等) 等

(※1) 定額助成単価は現場条件等に応じた標準的な工費の1/2相当

○ 定率助成

- ・ 農業用排水施設、暗渠排水、土層改良、区画整理、農作業道、農地造成、農用地の保全
- ・ ICTによる水管理や防草対策等の維持管理の省力化支援
- ・ 土壌改良等の高品質作物の導入に関する支援
- ・ 営農飲雑用水等の営農環境の整備に関する支援
- ・ 地形図作成等の条件改善促進支援
- ・ 指導・助言活動、施工実態の把握、外部監査 等



《高収益作物転換型》①②③で最大5年(ハードは最大3年)

① 高収益作物転換プラン作成支援(最大2年)

○ 定額助成^(※2)

- ・ プラン作成に係る調査・調整、農産物の需給動向の把握、効果的な輪作体系の検討、販売先に係る調査 等



② 農地耕作条件改善(最大5年(ハードは最大3年))

《地域内農地集積型》と同様



③ 高収益作物導入支援(最大5年)

○ 定額助成^(※2)

- ・ 技術習得方法の検討と実践、技術者の育成、試験販売等の経営展開の支援、現場での研修会開催 等
- 定率助成
- ・ 実証展示ほ場の設置・運営、導入1年目の種子・肥料等への支援、農業機械リース 等



(※2) プランの作成や技術習得等に必要経費を「高収益作物転換推進費」とし、1地区あたり上限300万円～500万円(年基準額)を支援

【高収益作物転換型の実施要件】

- 農業者2者以上(土地所有者含む)が取り組むこと
- ハード整備と併せ行うこと
- 作付面積のうち1/4以上を稲作等から新たに高収益作物に転換すること

2. 実施要件

- 農振農用地のうち農地中間管理事業の重点実施区域、本事業の実施により重点実施区域に指定されることが確実と見込まれる区域(これらを受益とする施設も対象)
- 総事業費200万円以上 ○ 受益者数2者以上 ○ 農地中間管理機構との連携概要の策定

3. 実施主体

- ・ 農地中間管理機構
- ・ 都道府県、市町村
- ・ 土地改良区、農業協同組合、農業法人等



水田フル活用と経営所得安定対策の着実な実施【公共】

畑地化・汎用化の推進による高収益作物の導入支援

- 区画整備済みの水田地域等において、高収益作物を導入した営農体系への転換に必要な水田の**畑地化・畑作物に軸足を置いた汎用化^(※)**を行うため、**ほ場レベルの末端用排水施設等の整備**を、効果発現に必要な**基幹水利施設の整備と一体的・機動的に推進**

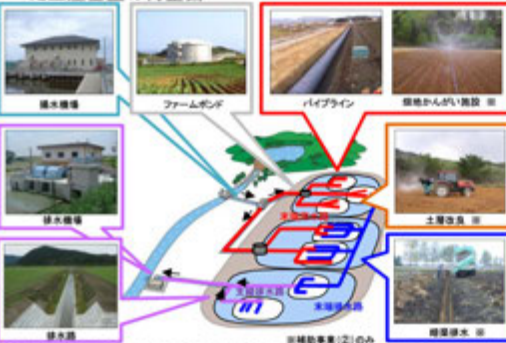
※「畑作物に軸足を置いた汎用化」: 地域で合意された営農計画に基づき、畑作物として麦・大豆だけではなく野菜等を積極的に導入し、畑作物からも高収益を得られる農業経営を目指す水田の畑作利用のこと

- 併せて、地域の取組レベルに応じた高収益作物導入・定着のための**ソフト支援**を行うことにより、**地域全体での営農転換を推進**

1. 事業内容

(1) 基盤整備

- 高収益作物を導入するために必要な水利施設を中心とした生産基盤の再整備



(2) 合意形成に向けた支援

- 調査・調整、指導
 - ・ 関係農家の意向調査、水利用・土地利用・作付調整活動
 - ・ 栽培技術の指導、土壌診断や作付実証、安定生産・生産ロット確保のための調査 等



○ 産地形成促進事業(促進費)(補助事業(②))

・ 助成割合

作付面積増加割合	国営事業(①)	補助事業(②)
5ポイント以上	5.20%	6.25%
6ポイント以上	6.24%	7.50%
7ポイント以上	7.28%	8.75%
8ポイント以上	8.32%	10.00%
9ポイント以上	9.36%	11.25%
10ポイント以上	10.40%	12.50%

・ 事業実施主体

- ・ 都道府県、市町村、土地改良区
- ・ 左記の表に加え、事業実施前が5%未満の場合には、10%以上に引き上げる

※本事業を実施した地区は、水田活用の直接支払交付金を交付しないこととする。(ただし、畑作物に軸足を置いた汎用化をした部分については、事業完了後5年間は減収緩和措置を講ずる。)

2. 実施要件

- ① 国営事業：国営かんがい排水事業（高収益作物導入促進対策）
 - (1) 受益面積 500ha以上（高収益作物の導入のための末端用排水施設の整備を含む）
 - (2) 高収益作物の作付面積割合が5ポイント以上増加
- ② 補助事業：高収益作物導入促進基盤整備事業
 - (1) 受益面積20ha（中山間地域にあっては10ha）以上
 - (2) 高収益作物の作付面積割合が5ポイント以上増加（ただし下限値2ha（中山間地域にあっては1ha））

3. 実施主体・補助率

- ①の事業においては
 - ・ 事業実施主体：国
 - ・ 国費率：2/3等
- ②の事業においては
 - ・ 事業実施主体：都道府県等
 - ・ 補助率：50%等

人口減少社会における農山漁村の活性化【一部公共】

中山間地農業ルネッサンス事業 400億円（優先枠等を設けて実施） — 中山間地農業特別支援対策 —

傾斜地などの条件不利性ととも鳥獣被害の増加、人口減少・高齢化・担い手不足等、厳しい状況に置かれている中山間地において、清らかな水、冷涼な気候、棚田の歴史等の中山間地の特色を活かした多様な取組に対し、各種支援事業における優先枠の設定や制度の拡充等により後押しし、中山間地農業を元気にします。

中山間地農業ルネッサンス事業の取組に係る国の指針に即して、複数の市町村単位等で地域別農業振興計画を作成。この計画に基づき、各種支援事業を計画的かつ総合的に実施。また、新たに創設する中山間地農業ルネッサンス推進事業(2億円)により、都道府県等の推進活動を支援。

「多様で豊かな農業」と「美しく活力ある農山村」の実現に向けた支援 優先枠 2 1 3 億円、制度拡充等

地域の特色を活かした農業の展開

- 農地や農業施設など生産条件の改善
- 集落営農の組織化・法人化等の生産体制の確立
- 少量でもこだわりのある厳選食材の生産・販売
- 6次産業化・ブランド化、地産地消の取組
- きめ細かな営農指導
- 最先端技術の導入

都市農村交流や農村への移住・定住

- インバウンド需要を呼び込む「農泊」の取組
- 教育・福祉等と連携した交流の取組
- 移住・定住、二拠点居住の推進
- 生活環境の改善

- 国の支援事業
- ・強い農業づくり交付金
 - ・農業農村整備関係事業
 - ・農業経営力向上支援事業
 - ・6次産業化ネットワーク活動整備交付金
 - ・農山漁村振興交付金(山村活性化対策を除く)

※ 連携事業 農山漁村振興交付金(山村活性化対策)

地域を下支え

地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承

優先枠 1 8 5 億円、制度拡充等

- 地域を牽引するリーダーの確保・育成
- 多面的機能発揮を図る地域の共同活動
- 鳥獣被害防止とジビエ等の利活用
- 放牧の取組
- 耕作放棄地の解消
- 農業と林業との多様な連携 等

- 国の支援事業
- ・多面的機能支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金
 - ・鳥獣被害防止総合対策交付金のうち整備事業(侵入防止柵、処理加工施設等)
 - ・荒廃農地等利活用促進交付金
 - ・国産粗飼料増産対策のうち地域づくり放牧推進

※ 連携事業 中山間地域等直接支払交付金

※ 関連対策として「戦略的プロジェクト研究推進事業」においても、中山間地に関するテーマの公募・審査時にポイント加算。

人口減少社会における農山漁村の活性化【非公共】

小水力等再生可能エネルギー導入支援事業 【平成29年度予算概算決定額：262(一)百万円】

ポイント

農業水利施設の適正な維持管理を確保するため、用水路の落差等を活用した小水力発電等の導入を支援します。

背景/課題

1. 農業水利施設は、食料供給の基盤であるのみならず、洪水貯留、地域排水、地下水涵養等に寄与していますが、ポンプ運転等に必要となる電気料金の値上げや施設の老朽化等によって維持管理費が増加傾向にあり、施設の適正な管理が困難となっています。
2. 農業集落排水施設についても、施設の更新時等にあわせて、維持管理費の軽減に資する取組を進める必要があります。

◆効率的・経済的な再生可能エネルギー・省エネルギー技術の導入のためのソフト支援

小水力等発電施設の調査設計等への支援

- ・小水力等発電施設の整備に係る**設計等**の取組を支援



土地改良区等技术力向上支援

- ・発電施設の導入・運営主体となる**土地改良区等**の**技術力向上**のため、技術力向上、維持管理、会計運営等に関する**研修等**の取組を支援



農業集落排水施設の効率性向上のための支援

- ・農業集落排水施設の**省エネルギー化**や汚水処理の過程で発生する**エネルギーの有効活用**を図る**整備技術の実証**、維持管理費の軽減手法に関する総合的な**技術書の作成・普及**の取組を支援



目標

担い手の米の生産コスト削減(H35年目標 9,600円/60kg)に向け、平成33年度位に農業水利施設の維持管理費について、使用電力量の25%分を削減



農業集落排水施設における省エネルギー技術の確立

要 請 活 動

ふくしまの復興・創生に向けた要請活動について

平成28年8月3日(水)に本会は、農林水産省、県選出国會議員並びに進藤参議院議員に「ふくしまの復興・創生」に向けた要請活動を行った。

要請内容

1. 農地の大区画化・汎用化等により営農経費・労働時間削減を図るための農業競争力強化基盤整備事業費や農山漁村地域整備交付金の予算を確保すること
2. ため池をはじめとする土地改良施設の防災力を高め、災害に強い農村づくりを推進するための農村地域防災減災事業費の予算を確保すること
3. 農業用水を安定的に供給するための国営かんがい排水事業地区の予算を確保すること
4. 営農作業効率の向上及び多様な作物生産を可能とする暗渠排水や水管理労力を軽減する小用排水路舗装等のきめ細かな整備ができる事業制度を充実強化すること

平成29年度県予算編成に対する要望活動について

平成28年9月9日(金)に本会は、福島県議会に平成29年度県予算編成に対する要望活動を行った。

要望内容

1. 農業農村整備事業の予算確保について
2. 農業水利施設の維持・補修・更新事業の積極的な推進について
3. 多面的機能支払交付金制度の推進と予算の確保について
4. 耕作条件改善にかかる事業の予算確保について
5. 干害の影響による農業継続支援策について



自由民主党福島県議会議員会



福島県議会民進党・県民連合議員会



公明党福島県議会議員団

小水力発電にかかる系統連系の容量確保に関する要望について

平成28年10月27日(木)から28日(金)にかけて、戸ノ口堰土地改良区、会津南部土地改良区連合、会津北部土地改良区、本会で、福島県企画調整部、東北電力株式会社福島支店、東北経済産業局、東北農政局、経済産業省、農林水産省、進藤金日子参議院議員へ小水力発電にかかる系統連系の容量確保に関する要望活動を行った。

要望内容

1. 戸ノ口堰地区：発電計画容量 新設180kw
2. 会津南部地区：発電計画容量 新設65kw
3. 会津北部地区：発電計画容量 増量65kw、新設124kw



進藤金日子参議院議員へ要請



経済産業省資源エネルギー庁への要請



室本農村振興局次長へ要請



奥田農村振興局整備部長へ要請

農業農村整備事業予算の確保並びに 東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動について

平成28年11月28日(月)から29日(火)にかけて東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会は、農林水産省、復興庁、財務省、県選出国會議員に平成29年度農業農村整備関係予算の確保並びに東日本大震災からの再生・復興に関する要請活動を行った。

要請内容

1. 新たな農業政策の実現に向け、地域の要望に十分応えられる平成29年度農業農村整備関連当初予算を確保すること
2. 急増する農地整備事業等を計画的に実施するため、市町村負担を軽減する地方財政措置の拡充等財政支援を充実すること
3. TPP協定に伴う国内農業への影響について過少評価することなく、農家の不安を払拭する十分な国内対策を継続的に実施すること
4. 農地・農業用施設の復旧・整備に必要な財源確保と十分な予算措置をすること



山本農林水産大臣へ要請



財務省太田総括審議官へ要請



橋復興副大臣へ要請

福島県土地改良の集い

平成28年9月17日(土)に本会主催により「福島県土地改良の集い」を開催した。会員約80人の出席のもと、進藤金日子参議院議員を招き、「農業農村の情勢について」講演をいただいた。

講演では、平成22年度に大幅に削減された農業農村整備事業予算回復、そして当初での予算確保が重要として農業農村整備予算確保に向けて取り組んでいくと述べた。



講演を行う進藤金日子議員

農業農村整備の集い

平成28年11月28日(月)、「シェンバツハ・サポー」(東京都千代田区平河町)において、「農業農村整備の集い」が開催され、全国の農業農村整備関係者約1,100名が参集した。

全国水土里ネットの二階会長が平成29年度当初予算の確保に向け、引き続き一致団結して取り組むと挨拶、続いて、山本農林水産大臣が全国各地からの事業実施のニーズに応えるため、引き続き予算確保に努めていくと述べた。

進藤金日子参議院議員から、今後とも闘う土地改良を旗印に予算確保の必要性を述べた。

その後、国に対する平成29年度当初予算の十分な確保など、5項目の要請案が全会一致で採択され、ガンパロウ三唱で集いの一切を終了した。

集い終了後、要請決議採択のもと、関係省庁へ要請活動を行った。



二階全土連会長挨拶



山本農林水産大臣祝辞



進藤金日子参議院議員祝辞

福島県土地改良団体職員連絡協議会 第40回総会及び業務研修会を開催

福島県土地改良団体職員連絡協議会第40回総会及び業務研修会は、去る7月14日(木)から郡山市熱海町の「四季彩一力」2F会議室において会員等74名が出席して開催された。

総会は、遠藤喜雄会長（そうま土地改良区 総務課長）の挨拶後、30年勤続者5名、20年勤続者7名、10年勤続者3名の方々が表彰された。

表彰式終了後は、福島県県中農林事務所 村上佐俊農村整備部部长、本会櫻田浩二専務理事より来賓祝辞を頂き、議事に入った。

議事は、江花川沿岸土地改良区の安田勝男事務局長が議長に選任され、提出議案すべてについて、原案のとおり承認・決定された。

総会後は、業務研修会が開催され、福島県立医科大学医学部疫学講座 大平哲也教授により「これからの生活をより楽しく健康に」と題し、笑いが健康に及ぼす効果や笑い方と体操を組み合わせた講義を受け、続いて水土里ネット福島 総務課 斎藤佳久課長補佐による「複式会計について」と題し、複式会計無料ソフト、原価償却計上の方法等を学んだ。

翌日15日(金)は、57名参加のもと、安積疏水土地改良区施設3ヶ所（十六橋水門、上戸頭首工、田子沼分水工）を視察し、先人達の偉業を再確認するとともに、施設の改修を行っている最中の規模の大きさや地下分水工までの階段の多さに驚いた参加者も多く、大変有意義な現地研修であった。



講師：大平教授による講義の様子



講師：斎藤佳久課長補佐



現地視察（十六橋水門）
説明：安積疏水土地改良区小林信一課長



永年勤続表彰者の皆様

ISO9001の定期審査 (JQA)

平成28年11月30日(水)から12月2日(金)にかけてJQA（一般社団法人日本品質保証機構）による定期審査が行われた。

ISO9001は、製品やサービスの品質保証を通じて、顧客満足向上と品質マネジメントシステムの継続的な改善を実現する国際規格であり、定期審査は毎年1回行われることになっている。

ISO9001審査を行うことで、運用している品質マネジメントシステムの効果を高めることが期待される。今回の審査では、マネジメントシステムの有効性の審査とプロセス審査が実施された。

具体的には、組織の目標が顧客のニーズや期待に沿っているかや品質保証と顧客満足の向上を達成する仕組みとして、インプットとアウトプットの一連の流れがうまくつながっているかや実際の業務プロセスの流れに沿って、PDCAサイクルが自律的に回っているか等について審査が行われた。



最終会議



トップマネジメントインタビュー



設計プロセスの審査

水土里ネット福島主催・参加による研修会

第14回農業農村整備事業成果発表会

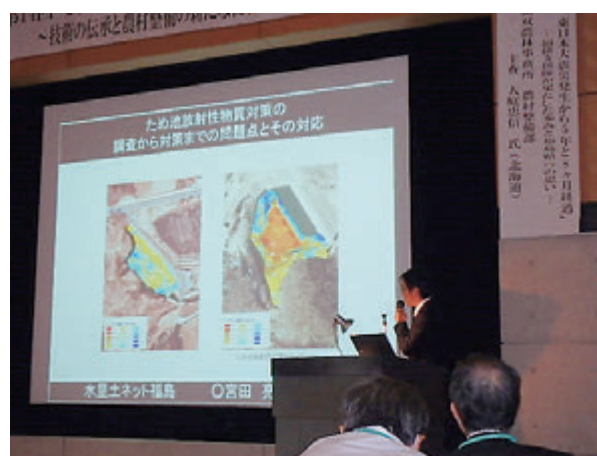
平成28年11月11日(金)、福島県農業総合センター多目的ホールに於いて第14回農業農村整備事業成果発表会が開催され、県、市町村、土地改良区、土地連など約100名が参加した。

本研修は、農業農村整備事業について、福島県が主催となり最新技術や理解を深めることを目的として毎年開催される研修会で、今年度は全17テーマの成果について発表が行われた。

水土里ネット福島からは、「ため池放射性物質対策の調査から対策までの問題点とその対応」と題し、環境整備課の菅野勉主任主査と宮田亮技師から発表があった。



主催者：菊地和明県農村計画課長の挨拶



宮田亮技師による発表

標準積算システムVer.3 福島県版 市町村等説明会

平成28年11月8日(火)～10日(木)、県土地改良会館中会議室において市町村・土地改良区職員約70名の出席で行われた。

本研修は、市町村、土地改良区の職員に対し、積算システムを使用して、工事及び委託の積算書の作成、管理等を行い、実際の発注業務へ活用できるよう毎年研修を行っている。



講師：谷孝樹企画指導課長



システムの受講状況

平成28年度 農業集落排水施設に係る新技術普及研究会

平成28年11月17日(休)、県土地改良会館4階中会議室において社団法人地域環境資源センター主催の「平成28年度 農業集落排水施設に係る新技術普及研究会」が開催され、国、県、東北・北海道土地連、本会担当職員等25名が参加した。

本研究会は、集排施設の整備、改築、維持管理及びそのほか有効利活用に関する技術を調査・研究するとともに、それらの技術を集排施設設置市町村等に提供及び普及することにより、集排施設の円滑な整備及び効率的な維持管理を推進し、水質保全及び資源循環を通じた農村地域の健全な発展に資することを目的として毎年1回研修会を実施している。

東北農政局からは、平成29年度の概算要求や長期計画における集落排水事業の位置付けについて説明があったほか、農業集落排水施設に係る技術情報等について、意見が交わされた。



研究会の状況

平成28年度 農業集落排水事業研修会

平成28年11月18日(金)、福島県農業集落排水事業推進協議会主催の「平成28年度 農業集落排水事業研究会」が県土地改良会館で行われた。本協議会は、福島県内の市町村等50会員を有し、農業集落排水事業実施に係る地区相互間の緊密な連絡と事業の円滑化を図ることを目的としている。

研修会では、まずはじめに主催者である西郷村村長の佐藤正博会長より挨拶があり、講演では、東北農政局地域整備課農村総合整備係長の佐藤健氏より「農業集落排水事業の現状と取り巻く状況について」説明があった他、福島県農村基盤整備課主任主査の円谷正人氏より「福島県の農業集落排水事業について」、地域環境資源センターの主任研究員の東博行氏からは、「農業集落排水施設の最適整備構想策定について」、同センター技術監の佐藤進氏からは、「農業集落排水施設における維持管理費の縮減方策について」それぞれ講演が行われた。



研修会の受講状況



主催者挨拶：佐藤正博会長



講師：福島県農村基盤整備課
円谷正人主任主査

平成28年度 換地処分実務研修会及び換地技術研究会

平成28年11月2日(水)午前、県土地改良会館中会議室において「平成28年度 換地処分実務研修会及び換地技術研究会」を開催し、県、市町村、土地改良区職員等約25名が換地技術の強化をはじめ、換地業務の円滑な推進や換地業務等に関する知識の向上を目的に、換地上の留意点などについて学んだ。



受講の状況



講師：福島県農地管理課 斎藤由紀夫主査

平成28年度 農地連坦化促進研修会

平成28年11月2日(水)午後、県土地改良会館大会議室において「平成28年度 農地連坦化促進研修会」を開催し、県内の換地委員、改良区職員等約90名が安定的な経営体による農業構造を確立することを目的に、農地集積の取組みについて学んだ。

また鏡石成田地区における事例の紹介や、南相馬市の農地復興と農業再生に向けて、南相馬土地改良区の参事發田榮一氏より講演があった。



主催者挨拶：渡辺強 農村振興部長



受講の状況

終了後に行ったアンケート結果では、参考になったとの回答が8割を得、また、事例発表については、「わかりやすく、大変参考になった」という意見が多かった。

今後も続けてほしいという意見が寄せられ、農地集積推進の重要性をより一層深めることができる研修会であった。

第14回 治右衛門の堰「あじさい祭り」 ～「愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？」施設巡りバスツアー～

いわき市立夏井小学校の4年生約18名を対象とした第14回治右衛門の堰「あじさい祭り」、「愛谷江筋はどこから流れてくるのかな？」施設巡りバスツアーが、愛谷堰土地改良区主催により平成28年6月28日(火)に開催された。

当日は、小雨が降る中でありましたが、愛谷頭首工、北白土除塵機、新川サイフォンなどの施設を見学し、先人達の偉業と愛谷江筋の歴史を知り、改良区が管理する施設の重要性を学んだ。



頭首工で説明を受ける児童



除塵機の前で説明を受ける児童

西根堰の隧道探検 ～水とともに栄える西根郷・水の大切さを考える～

伊達西根堰土地改良区主催により平成28年8月18日(木)に「西根堰の隧道探検2016」が開催された。児童ら約31名が参加し、西根上堰頭首工で同堰の歴史や仕組みについて説明をうけながら見学をし、その後、江戸初期に開削された隧道内をボート等で下る体験をした。

児童らは初めて体験する隧道探検で、先人達の偉業に驚き、そして苦労を知り、豊かな水の大切さを学んだ。



頭首工で説明を受ける参加者



隧道の中を下る様子

栗本堰を訪ねる小学生勉強会

平成28年9月28日(水)、地元の福島市立大笹生小学校の4年生20名による「栗本堰を訪ねる小学生勉強会」が行われ、土地改良区が管理する施設（栗本堰頭首工、円筒分水工、幹線水路）の見学及び水質調査を体験した。

勉強会は水利施設、農業用水の地域に関わる役割や保全活動について説明するとともに、今後、地域を担って頂く子供たちに農業農村の持つ多面的機能について理解を図る目的で開催している。

参加した生徒たちは、普段は通行できない河川区域を車両で走行したり、間近では見る事ができない施設の見学を行った。

また、水質調査では、水路上流と下流とで水を採取し、水質判定で性質の違いに驚きながらも、水の大切さや水利施設の役割を認識して理解を深めた。



大笹生小学校の生徒



栗本堰頭首工を見学



円形分水を見学



水質調査 (CODバックテスト)



記念撮影 (円形分水にて)



水質調査 (透視度)

白河市イベント「Decoraしらかわ2016」

平成28年11月5日(土)、6日(日)、地域の振興などを目的に開催された、「Decoraしらかわ2016」(主催：Decoraしらかわ実行委員会)に、水土里ネットあぶくまが中心となった阿武隈上流管理体制整備推進協議会が前年同様、土地改良区や農業用水の役割等を市民などに広く知ってもらおうと、会場内ブースでパネルの展示、アンケートを行った。

今年も協議会ブースには、多くの人がつめかけ、パネルや協議会からの説明をとおして土地改良区の役割、身近にある農業用水の大切さについて広くPRを図った。



子供達にPRの風船を配る



協議会ブースの状況

第13回水土里ネット・施設めぐり健康ウォーク ～土地改良施設を知ろう！～

会津南部地区管理体制整備促進協議会、水土里ネット会津大川主催による「第13回水土里ネット・施設めぐり健康ウォーク」が平成28年10月16日(日)に開催された。

当日は、参加者約60名が本郷運動場をバスに乗車して出発、途中馬越頭首工を見学し、せせらぎ公園管理棟でバスを降り、御用地分水庭、本郷発電所、水車の公園、本郷運動場を巡る延長4kmのコースを楽しんだ。

ゴールでは、「おにぎり、飲み物」が振る舞われた他、お楽しみ抽選会も行われ、有意義な時間を過ごした。



スタート前の説明を行う佐竹孝事務局長



ウォーキングの参加者

第2回ばんだい紅葉ウォーキング

平成28年10月29日(土)、磐梯ふるさとの森公園（おおり公園）をスタート・ゴールとした『第2回ばんだい紅葉ウォーキング』が開催され、80名を超える参加者が、紅葉に囲まれた磐梯町の風景を楽しんだ。

開会式では、磐梯町のマスコットキャラクター「ロボばんじい」と準備体操を行い、磐梯町の農村風景やトマトの収穫体験を楽しみながら、約8kmのコースを全員が完歩した。

昼食では、磐梯町の食材たっぷりのお弁当やスイーツ、会津磐梯町そば協会の皆様により新そばが提供され、また磐梯町の新米やりんごなどの特産品が賞品のお楽しみ抽選会が開催されるなど、磐梯町の魅力がたっぷり詰まったウォーキングイベントとなった。



開会式の状況



ウォーキングの参加者

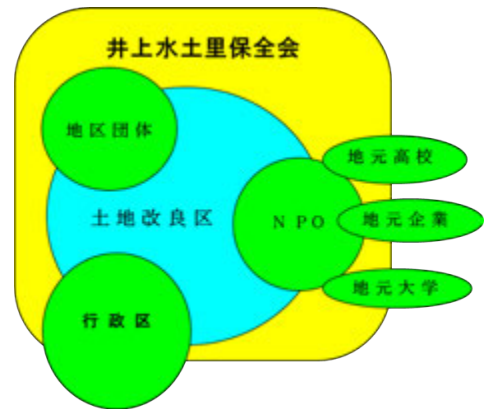
水土里ネット井上用水堰「田んぼアート」実施 いわきのNPOと連携

磐城農業高校、井上水土里保全会の共催で、耕作放棄地を解消し、地域交流を図る目的で、平成27年から「田んぼアート」が実施されている。平成28年度は、田植えに地元組合員ほか約70人が参加し、約2,000㎡の水田に古代米など4種類の苗を植えた。

田植え後2ヶ月ほどで「いわき市政50周年」のシンボルマークを基にした図柄が分かるようになった。会場となった水田は10年以上も農地として利用されておらず、雑草の生い茂った耕作放棄地であったことから、平成26年度に草刈りや抜根等が行われた。



いわき市政50周年のシンボルマーク描く (2016)



田植えの状況 (6月)



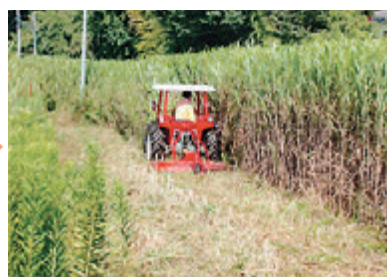
稲刈りの状況 (9月)



【耕作放棄地の解消】



耕作放棄の状況



草刈りの状況



抜根作業の状況

「ふくしま むらの輝き2016」 写真コンテスト

福島県多面的機能推進協議会が主催する「ふくしま むらの輝き2016」写真コンテスト審査会が、平成28年12月22日(休)に福島市の県土地改良会館で行われた。

本コンテストは、写真を通して農村の「良さ」を再発見し、そして、この大切な農村風景を知恵と工夫で守っている多面的機能推進事業を多くの方に知ってもらい、農業・農村に対する理解を深めてもらうことを目的に行っている。

本年度も数多く寄せられた作品の中から審査会で優秀作品が決定された。

最優秀賞に決定した安齋さんの応募作品には、「ほぼ田植も終わり、朝日に輝く水田風景を撮りたく4度目の挑戦で撮影できた1枚です。やがて陽も高くなり優しく苗を育ててくれます。秋は豊作となり一面黄金色の海となることを祈りつつ、撮影を終えた一枚です。」とコメントされている。

◎ 【最優秀賞】 テーマ共通



「豊作の兆し」(撮影地：安達郡大玉村) 安齋保里さん

「ふくしま むらの輝き2016」写真コンテスト受賞者

(敬称略)

テーマ区分	受賞区分	題名	氏名	住所
テーマ共通	最優秀賞(1)	豊作の兆し	安齋保里	二本松市
地域ぐるみ活動	優秀賞(2)	地域の絆	佐藤源策	郡山市
		笑顔の郷で	遠藤英次	伊達市
	入選(3)	収穫おえて秋	門林泰志郎	いわき市
		植えた苗、刈ったゾー	室井昭二	南会津町
		だいこん穫った!	池上和夫	郡山市
農村風景	優秀賞(2)	雪に負けない	柏舘健	いわき市
		寒い朝	影山藤一郎	郡山市
	入選(3)	収穫を終えて	宇佐見富士夫	須賀川市
		朝仕事	橋本寛二	三春町
		かえりみち	佐藤進吾	いわき市

◎地域ぐるみ活動
【優秀賞】



「地域の絆」 佐藤源策さん



「笑顔の郷で」 遠藤英次さん

◎農村風景
【優秀賞】



「雪に負けない」 柏舘 健さん



「寒い朝」 影山藤一郎さん

入選



「収穫おえて秋」
門林泰志郎さん

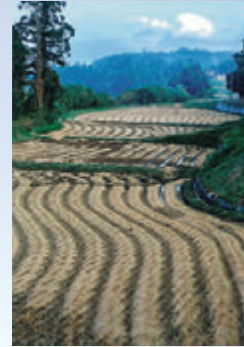


「植えた苗、刈ったゾー」
室井昭二さん



「だいこん穫った!」
池上和夫さん

入選



「収穫を終えて」
宇佐見富士夫さん



「朝仕事」
橋本寛二さん



「かえりみち」
佐藤進吾さん

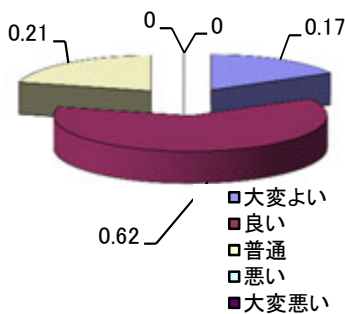
水土里ネット福島に対するアンケート調査結果

ISO9001 顧客満足調査結果 (2015年度)

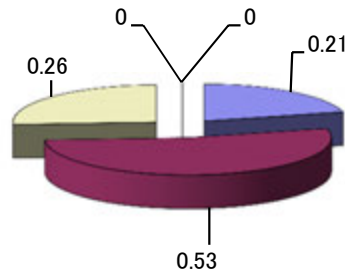
本会では、「現在及び将来の顧客ニーズ」を理解するとともに、顧客要求事項を満たし、顧客の期待を越えるように努力するため、会員の皆様にアンケート調査を行っています。

業務の着手から納品まで、手順に基づきプロセス監視を行っております。不手際等によって、皆様にご迷惑をおかけした場合には、速やかに是正・改善を図るべく対処してまいりますので、今後ともご理解、ご協力をお願いします。

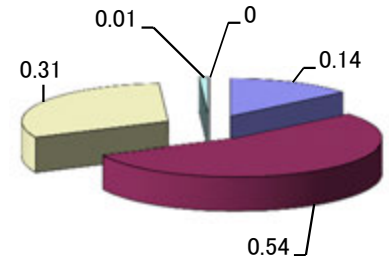
II. 成果品について(品質は?)



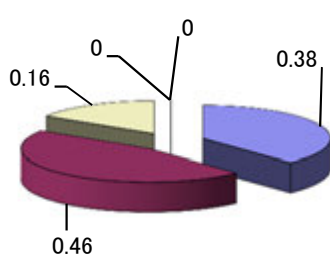
III. サービスについて(1)~(5)平均



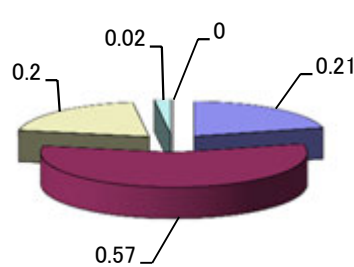
III (1) 企画提案の対応



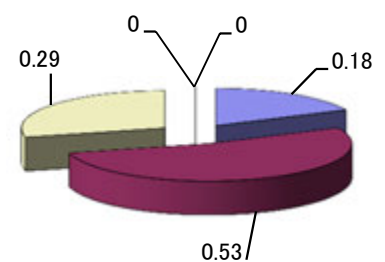
III (2) 相談(支援)対応



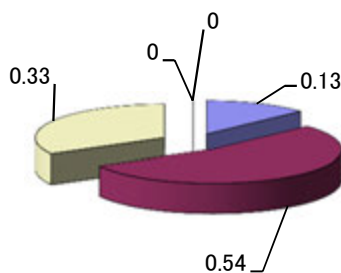
III (3) 情報提供の対応



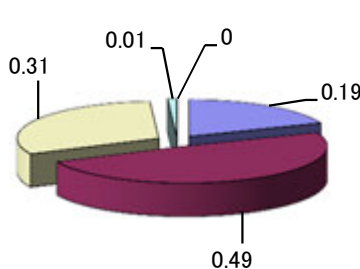
III (4) 研修(説明)会の対応



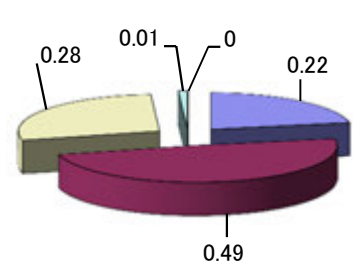
III (5) 審査対応(会検査)



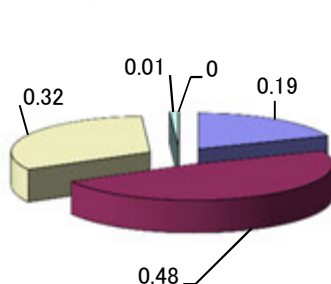
IV. 打合せについて(1)~(4)平均



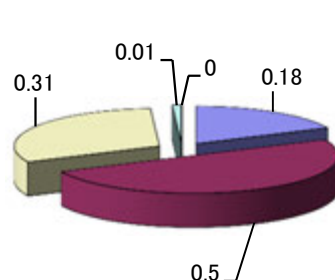
IV (1) 対応(スピード)



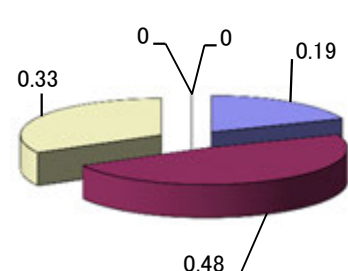
IV (2) 時期(タイミング)



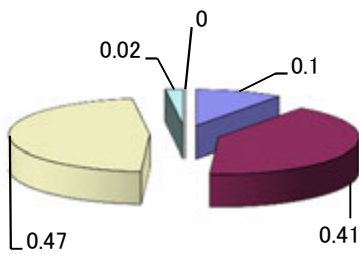
IV (3) 情報提供の対応



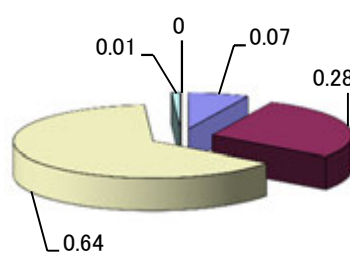
IV (4) 研修(説明)会の対応



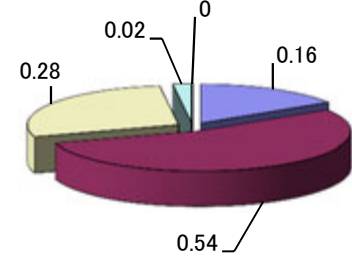
V.納品について



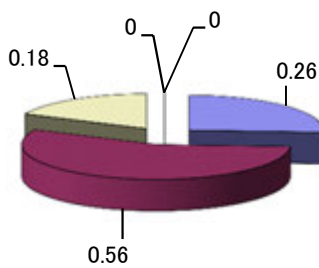
V(1)工期遵守



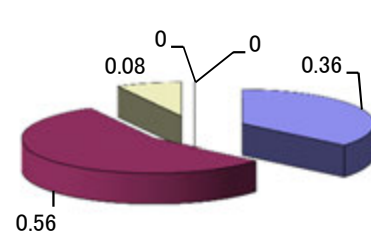
V(2)説明



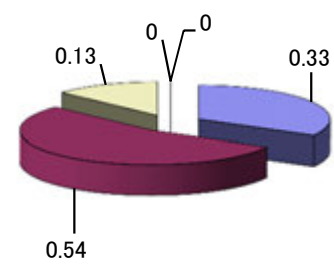
VI.本会の担当者について



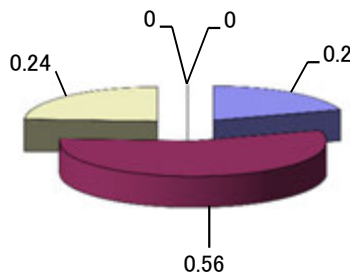
VI(1)態度・マナー



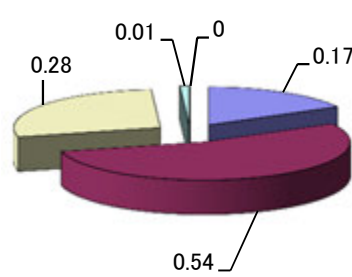
VI(2)支援・協力



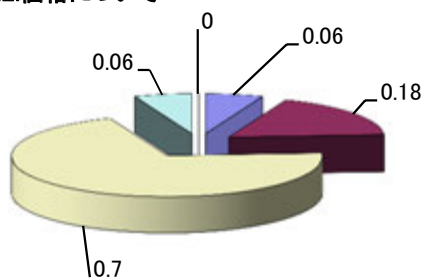
VI(3)業務の正確度



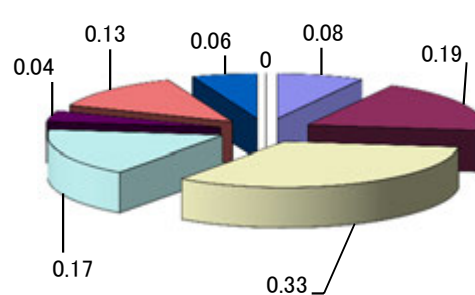
VI(4)業務の速度



VII.価格について



VIII.今後の事業・制度について




- 生産基盤整備
- 土地改良区組織員営強化
- 土地改良施設管理支援
- 多面的機能支払
(農地・水・環境保全向上対策)
- 資源循環・環境保全対策
- 農村の総合的整備
- 農業集落排水整備
- その他



県内の土地改良区ホームページをご紹介します。

- 福島市土地改良区 <http://fukutokai.web.fc2.com/>
- 伊達西根堰土地改良区 <http://sky.geocities.jp/datenishine/>
- 安積疏水土地改良区 <http://www.asakasosui.jp/>
- 矢吹原土地改良区 <http://yabukihara.org/>
- 会津北部土地改良区 <http://www.aizuhokubu.or.jp/>
- 会津宮川土地改良区 <http://www.aizumiyakawa.jp/>
- 戸ノ口堰土地改良区 <http://www.tonokutiseki-tochikairyoku.com/>
- 南相馬土地改良区 <http://midorinet-minamisoma.jp/>
- 請戸川土地改良区 <http://www.ukedogawa.jp/>
- 愛谷堰土地改良区 <http://www8.plala.or.jp/aiya/>
- 鮫川堰土地改良区 <http://www.ac.auone-net.jp/~samegawa/>

土地連の登録内容及び有資格者数

土地連の登録内容 (H29.1.1現在)		各種有資格者数 (H29.1.1現在)		
登録内容	登録年月日・登録番号	NO	資格名称	資格人数
ISO9001:2008/JISQ9001:2008 マネジメントシステム登録 	H27.2.16付更新 登録証番号 JQA-QMA13143	1	測量士	20
		2	測量士補	21
建設コンサルタント	H27.12.3付更新 建27第7079号 農業土木部門	3	GIS 1級	1
		4	技術士(農業部門)	6
		5	技術士補(農業部門)	20
		6	技術士補(環境部門)	1
		7	RCCM(農業土木)	7
		8	RCCM(下水道)	1
		9	1級建築士	1
		10	2級建築士	1
一級建築士事務所	H24.4.9付更新 第11(404)1975号	11	計量証明事業登録	1
		12	環境計量士	1
計量証明事業登録	H7.7.3付登録 第環34号	13	土地改良換地士	8
		14	土地改良補償業務管理者	5
測量業者登録	H27.9.7付更新 登録第(2)-032811号	15	上級農業集落排水計画設計士	6
		16	農業集落排水計画設計士	1
浄化槽保守点検業者登録	H27.5.14付更新 福島県知事登録第1353号	17	浄化槽技術管理者	16
		18	浄化槽管理士	16
農業農村整備事業 発注者支援機関認定	H28.3.31付認定 第1607号	19	コンクリート診断士	1
		20	農業水利施設機能総合診断士	1
		21	農業水利施設補修工事品質管理士	2
		22	農業農村地理情報システム技士	1
		23	土地改良専門技術者	6
		24	1級土木施工管理技士	7
		25	2級土木施工管理技士	1
		26	1級建築施工管理技士	1
		27	1級電気工事施工管理技士	1
		28	第三種電気主任技術者	1
		29	1級管工事施工管理技士	1
30	2級管工事施工管理技士	1		
31	浄化槽設備士	5		
			公害防止管理者	1

お知らせ：「農家のみなさんへ」の放送内容は、水士里ネット福島のホームページに掲載しております。
ホームページアドレス <http://www.midorinet-fukushima.jp> にて、ご愛読くださるようお願い致します。

農業農村整備の調査測量設計・農業集落排水事業・換地業務・確定測量・その他土地改良事業のご相談は